

**日本青少年訪韓団（第4団）派遣プログラムの記録**  
**（対象国：韓国，テーマ：日本の魅力発信及び日韓相互理解）**

**1. プログラム概要**

日本の中学生等30名が韓国を訪問し、学校訪問、韓国文化体験、歴史的建造物の視察等を通じて韓国への理解を深めるとともに、各訪問先では人的交流を通じて日本の魅力を発信する等、日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。また、帰国前の報告会では、この経験を活かした帰国後のアクション・プランについて発表しました。

**【訪問地】** 韓国・ソウル特別市、京畿道義王市・水原市・城南市・坡州市・龍仁市

**2. 日程**

11月4日（日） 入国（仁川空港）

11月5日（月）

【表敬訪問】国立国際教育院，【文化体験】韓服試着，【ソウル市内視察】Nソウルタワ

ー

11月6日（火）

【ソウル市内視察】国立ハンゲル博物館，仁寺洞，MUSEUM KIMCHIKAN，明洞，【文化体験】キムチづくり

11月7日（水）

【学校訪問・交流】徳壮中学校，【水原市内視察】サムソンイノベーションミュージアム

11月8日（木）

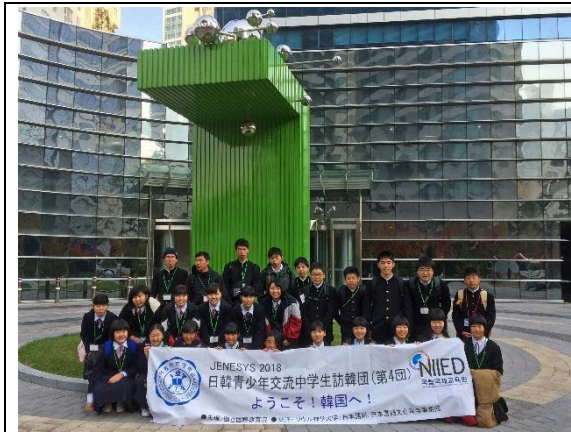
【水原市内視察】農楽あそび見学，綱渡り見学，馬上武芸見学，【文化体験】短簫（韓国伝統笛）作り，【水原市内視察】水原華城蒼龍門

11月9日（金）

【坡州市内視察】DMZ視察プログラム，【講義】DMZ地雷被害者に関する韓国の現実，成果報告会

11月10日（土） 出国（金浦空港）

### 3. プログラム記録写真



11月5日【表敬訪問】国立国際教育院（京畿道城南市）



11月5日【文化体験】韓服試着（ソウル特別市）



11月6日【視察】国立ハングル博物館（ソウル特別市）



11月7日【学校訪問・交流】協同授業（京畿道義王市）



11月7日【学校訪問】日本の魅力紹介（京畿道義王市）



11月8日【文化体験】短簫（韓国伝統笛）作り（京畿道龍仁市）



11月9日【視察】DMZ 視察プログラム（京畿道坡州市）



11月9日【講義】DMZ 地雷被害者に関する韓国の現実（ソウル特別市）

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 日本 中学生

・日本をよく思っていない人が多いと思い不安だったが、受け入れ大学の大学生ボランティアやガイドの方、徳壮中学校の先生、生徒の皆さんが優しく接して下さり、安心した。大変充実したプログラムで、本当に貴重な体験となった。韓国は日本と異なるところも数多くあるが、尊重し合って関わっていきたい。

・文化も言葉も異なるため、コミュニケーションをとることは難しいのではと考えていたが、徳壮中学校への訪問を通じて、相手の目を見て、身振り手振りで伝えれば交流することができるということを学んだ。新しい友達との貴重な交流の時間、体験の機会を下さり、感謝している。今後は韓国からの訪問者を歓迎し、日本の文化を伝えていきたい。

・国家間では難しい問題があるが、韓国で知り合った方々は本当に優しく話しやすい。日本と韓国には長い歴史があるが、難しい問題だけではなく、よい部分もあるのだと知った。今後も SNS を通じて関わっていきたい。

・日韓間では政治の面では難しい部分もあるが、実際には日本に親しみを持って接してくれる人も多く、もっと心を開いて関係を持つことが大切だと感じた。今回のようなプログラムが増えて、両国のよさをわかり合えるような交流ができればと思う。

#### 5. 受け入れ側の感想

##### ◆ 韓国側主催機関担当部長

本プログラムの各種視察や文化体験等を通じて、歴史や文化の多様性について学び、国際的な感覚を養ってほしい。日韓両国の共同発展、また日韓の未来志向的な関係構築のために何ができるのか、中学生としての役割について考える機会となることを願う。

##### ◆ 訪問校担当教諭

日本の中学生が本校を訪問し、一緒に授業を受けたり、運動をしたり等、様々な教育活



動を共にしたことで、本校生徒の日本に対する理解度及び好感度が大変高まった。1日があっという間に過ぎてしまい、別れを惜しむ生徒の姿を見て、大変有益な時間だったと実感した。

◆ 受け入れ大学担当教授

メディアを通じて得た情報から知る韓国の姿ではなく、実際の韓国の姿を見せたいと思い、プログラム内容を策定した。今後も自分自身が感じたものを信じ、自分の目で直接見たものを大切にしてほしい。本プログラムでの出会いを大切に、今回の訪韓のことについて高知県で積極的に発信してくれることを願う。

◆ 受け入れ大学大学生ボランティア

大変楽しい時間を共有することができた。本プログラムを通じて、目で見、耳で聞いて、実際に体験して感じたことや、一緒に過ごした時間が団員らにとっていつまでも記憶に残ればうれしい。いつか再会したい。

## 6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



帰国前夜、一行は成果報告会を行い、今回の日程における各種視察や交流、文化体験等を通じて得た成果の共有と帰国後のアクション・プランについて発表した。

団員からは、「徳壮中学校との交流が楽しかった」「韓国の歴史や文化を学ぶことができた」「(日本と韓国は使用言語が異なっても) 伝えようとしたら伝わるということを学んだ」との声が数多く上がった。

また、日本の引率者からは、「韓国の伝統文化や歴史に触れるとともに、世界に誇る最新のテクノロジーを体験したり、徳壮中学校との交流等、充実したプログラムだった。こうした貴重な経験を日本に帰国してからも周囲に伝えていきたい」との総評があった。

(了)